

総務文教委員会

本委員会では、平成21年第3回臨時会において付託された、「富良野市東山地域コミュニティカー運行条例の制定について」慎重に審査を進めてきました。

この条例は、ふらのバス老節布線が本年10月1日で廃止となり、西達布線に集約して運行されることにあわせ、市内高等学校通学者及び医療通院者の交通の確保のために、自家用有償旅客運送を市が行えるよう制定しようとするものです。

条例制定の理由として、老節布線は、様々な要件により年々乗車人員が減少し、北海道の準生活交通路線維持費補助制度の要件を満たすことが困難となったため老節布線を廃止し、西達布線に集約することにより、西達布線の維持を図ることが主な理由とされました。

また、東山地域では医療通院者のためのコミュニティカーが事業者委託で運行されていますが、廃止後は本条例によるコミュニティカー運行へ移行し、利

用者を高等学校通学者にも拡げ回数も増加するものです。

なお、コミュニティカーは運行委員会を設け、地域の団体により運行されるものです。

審査では、老節布線廃止の協議経過ほか7項目の資料の提出と説明を受け、協議の結果、次の4点について市長と意見交換を行いました。

- ①富良野市全体の路線バスの維持に関する考え方と、バス利用者の拡大方策について。
 - ②東山地域に限定した理由と、今後の他地域への活用に対する考え方について。
 - ③地域公共交通会議の役割について。
 - ④地域運行の継続性について。
- 委員会では、4項目に対し改めて市長の見解も確認できたことから、次の意見を付し全会一致で「原案どおり可決すべきもの」と決定をしました。

【審査意見】

他の地域において、バス路線廃止などの課題が生じたときは、情報を速やかに公開するよう努められたい。

議会改革特別委員会

平成21年第1回定例会において、議会の持つ機能を十分に駆使し、住民の負託に応える議会を目指し、更なる改革が必要であるとの判断から本委員会が再設置されました。

■ラジオ市議会アンケート

本年第1回定例会からスタートした、ラジオ市議会に対するハガキによるアンケートは、配送した200通のうち、回答率は15%で「富良野市議会のラジオ放送を知っていましたか」という設問で55%が「いいえ」と答え、周知不足がうかがわれました。放送内容については「良かった」が34%で、無回答が61%、「工夫が必要」との回答もありました。

また、回答のあった30通のうち14通にコメントがあり「議会の発言状況が良く分かり身近に感じた」「一問一答は大変分かりやすい」「議会に足を運べないので継続してほしい」などの声の反面、PR不足や放送時間

帯に対する指摘や、「原稿の丸読みのようで頭に残らない」また、「本人の言葉とは思えない、シナリオがあって読んでいるのではないか」という声もありました。それぞれ貴重な意見として今後の参考にして行きたいと思います。

■議場から地域へ、住民対話が最優先課題

議会改革特別委員会の再設置後の委員会協議で、議会報告会などの住民対話を最優先課題とする事が確認されました。まず、議会改革特別委員会が地域に向いて、議会活動の状況や、本委員会の取り組みについて報告し、批判や意見に耳を傾ける機会を設け、その中から今後の方向性を探る事で意見の一致を見たとところであります。当初は、実験的取り組みとしての位置づけであり、全地域を網羅することとは出来ませんが、任期中に議員全員による全地域での議会報告会を目標としております。議会改革は議決機関である議会の機能を高める取り組みであり、市民の皆様のご協力を宜しくお願いいたします。